海外生活エッセー

ソウル事務所

子どもが教えてくれた、韓国の幼稚園

（一財）自治体国際化協会ソウル事務所　所長補佐　穴田　拓也（徳島県派遣）

ソウルへの赴任に伴い、子どもを現地の幼稚園へ通わせることになりました。海外での園生活に不安もありましたが、実際に通い始めると、日本との違いを感じる場面が数多くありました。今回は、私が日々の園生活の中で印象に残った韓国の幼稚園事情をご紹介したいと思います。

✈ スマートフォンがつなぐ園と家庭

まず驚いたのは、保護者との連絡がほぼすべてスマートフォンのアプリで完結していることです。登降園の管理や欠席連絡はもちろん、クラス通信、保護者アンケート、行事への参加申し込み、給食の献立やアレルギー情報の確認まで、一つのアプリ上で行うことができます。園での様子も写真付きで共有されるため、「今日はこんな遊びをしたのか」と子どもの一日を知ることができ、とても便利に感じています。日本でも同様のアプリを導入している園や学校はありますが、ここまで幅広い機能が一元化されていることは新鮮でした。

✈「韓国らしさ」を感じる毎日の園生活

給食も印象的でした。園内の厨房で調理された昼食と午後のおやつに加え、午前中にはお粥などの軽い朝食も提供されます。さらに、献立には毎日のようにキムチが並び、韓国らしさを感じます。

また、園内にはウォーターサーバーが設置されているため、水筒は空のまま持参すればよく、保護者の負担軽減にもつながっています。

園では弦楽器や英語などに触れる機会も設けられており、幼い頃からさまざまな経験ができる環境が整えられていることも印象に残りました。

そのほか、通園バスの対応も非常に柔軟で、自宅近くに停留所がなかったため相談したところ、新たに停留所を設けて、短期間で運行を開始してくれました。その対応の速さには驚かされました。

✈ 子育てを支える制度と現実

一方で、韓国では待機児童の問題も耳にします。特にソウルなどの都市部では、希望する幼稚園や保育施設に入れないケースもあるようです。

こうした課題がある中でも、子育て支援制度が充実している点が印象に残りました。外国人もソウル市の補助の対象となっており、現地の人と同じ水準で子育てを支援する制度が整っています。

✈ 子どもの成長とともに見えてきた韓国

もちろん、こうした特徴はすべての園に共通するものではないかもしれません。しかし、子どもを現地の幼稚園へ通わせてみることで、観光や仕事だけでは気づけない韓国の日常や教育の一端に触れることができました。

子どもを通して、韓国語の歌や食べ物、遊びを知り、私自身も韓国社会への理解を深める日々を送っています。

キムチ入り給食を食べる様子
このような写真がアプリで届く